

組織目標評価報告書(2019年度)

15

部局名: 大学院保健学研究科

部局長名: 中塚幹也

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>関連する 年度計画の番号</p> <p>3③【3-1】 9⑤【9-1】</p> <p>・助産師養成コース、医学物理士養成コースなどの現行のコースワークを推進する。</p> <p>・生殖補助医療技術キャリア養成特別コースの学部・大学院一貫体制での教育を推進する。</p> <p>・大学院における現行の助産師リカレントプログラムを推進するとともに、新たな分野、あるいは、分野横断型、連携型のリカレント教育の実施に向けて提案する。</p> <p>・教育の質保証に向けて、複数教員による大学院生の指導体制を推進する。</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>看護学分野では助産学コース、がん看護専門看護師(GNS)コース、放射線技術科学分野では博士前期課程の放射線安全・医療応用学コース、がん放射線科学コース、医学物理士コースを実施している。検査技術科学分野では、細胞検査士コースをゲノム医療サイエンティスト育成コースへと改編を行いプログラム開始予定である。</p> <p>生殖補助医療技術キャリア養成特別コースにおいて、学部・大学院一貫体制での胚培養士養成コースを検討中である。</p> <p>助産師リカレントプログラムでは受講料を徴収しコースを運営、設備の充実を行った。文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)の認定を受け、文部科学省「大学等の履修証明制度」により、就労・非就労の助産師16名の修了者に履修証明書を授与、2020年度のプログラムの個人受講者14名と施設受講5施設を選定した。看護師、診療放射線技師などを対象とした超音波検査技術習得プログラムの実施に向けてプロジェクトチームを組織した。</p> <p>教員の資格審査を行うとともに、複数教員による大学院生の指導体制を推進するため、部局内外からの副指導教員を認定した。</p>
<p>②研究領域</p> <p>関連する 年度計画の番号</p> <p>48①【48-1】</p> <p>・研究開発・推進委員会における議論を進め、保健学研究科内の分野間、また、ヘルスシステム統合科学研究科などの他研究科との間での共同研究を促進する。</p> <p>・研究開発・推進委員会等において、地方自治体等との共同研究、受託研究の獲得に向けて検討する。</p> <p>・研究開発・推進委員会において、論文数や外部資金獲得数などを分析し、特に、若手教員、大学院生の研究推進を援助する。</p> <p>・研究力のある女性教員、若手教員の採用に努めるとともに、国内外からの客員研究員などの受け入れを検討する。</p> <p>・科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>岡山大学生殖補助医療技術教育研究(ART)センター、環境生命科学研究所との共同研究により論文投稿中、科研、AMED等に申請中である。</p> <p>岡山県の不妊専門相談センター事業、おかもやま妊婦・出産サポートセンター事業、妊孕性温存環境整備研修事業などを受託し実施した。研究開発・推進委員会において、地方自治体等との共同研究、受託研究の獲得に向けて分野を超えたチームを組織することなどの検討を行った。</p> <p>研究開発・推進委員会において、論文数や外部資金獲得数などを分析した。その結果をもとに、科研申請のためのセミナーを開催した。また、若手教員の科研申請書の推敲を行った。特に、若手教員、大学院生の研究推進を援助するため、英文論文の添削のための経費の補助、国際学会での発表者への経費の補助を行った。</p> <p>研究力のある女性教員、若手教員の採用に努めるとともに、科研を獲得している女性の客員研究員の受け入れなどを行った。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>関連する 年度計画の番号</p> <p>48①【48-1】 49② 85①</p> <p>・周産期医療、地域母子保健に関与するスタッフのスキルアップやリカレント教育による「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを継続し、履修者の養成を行う。</p> <p>・地方自治体や職能団体の委員会等に参加・協力して、地域行政、医療、保健、福祉などの施策に貢献する。</p> <p>・保健学研究科が中心となって、また、地方自治体や職能団体と連携して、医療、保健、福祉などに関する公開講座等を開催する。</p> <p>・大連医科大学(中国)大学院とのO-NECUS(岡山大学-中国東北部大学院留学生交流)プログラム協定による短期留学生の受け入れを推進するとともに、Post O-NECUSプログラムでの受け入れによる博士後期受験生の増加を図る。</p> <p>・国内外からの受験生、留学生を増やすために、SNSなども利用した保健学研究科の広報を検討する。</p> <p>・多様性を認め合うダイバーシティ教育の視点でボランティア活動を促進する。</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>助産師リカレントプログラムを実施、受講料を徴収しコースを運営、設備の充実を行った。文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)の認定を受け、文部科学省「大学等の履修証明制度」により、就労・非就労の助産師16名の修了者に履修証明書を授与した。</p> <p>各教員が、岡山県などの地方自治体の各種委員会、医会や看護協議会などの職能団体の役職、学会の役職などの職責を果たし、地域行政、医療、保健、福祉などの施策に貢献した。</p> <p>岡山県と連携した公開セミナーを4件実施した。岡山県母性衛生学会を主催し公開シンポジウムを実施した。</p> <p>O-NECUSプログラムにより2名を保健学研究科で受け入れるとともに、Post O-NECUSプログラムで2名を博士後期課程に2020年から受け入れることを決定した。</p> <p>教員や大学院生の学会、競技大会等での受賞の情報を収集、ホームページ上で発信するシステムを作り開始した。研究科長からインスタグラム、フェイスブックで発信するためのアカウントを開設した。広報委員会の活動の実質化のため、入試委員会、教務委員会、学生生活委員会を含めた4委員会の合同会議を2回開催した。</p> <p>ポケットサポートなどのNPO団体、岡山県学生献血推進連盟、岡山県赤十字血液センターなどからのからの訪問・要請を受け会談した。ボランティア活動に関する掲示版を設置し、疾患を持つ子どもへの支援のためのボランティア養成講座など、講演会などの広報を行った。学生が安全にボランティアを行うことができ、また、それを推進するための規約を制定し顕彰制度を開始した。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>関連する 年度計画の番号</p> <p>70④【70-1】</p> <p>・研究科長室会議、運営会議、教員連絡会等の実質化により、ガバナンス機能を強化する。</p> <p>・外部評価委員会を設置することにより、教育、研究、社会貢献に対する活動の評価を受けるとともに、改善点を踏まえた目標設定につなげるシステムを構築する。</p> <p>・若手教員や学生の意見収集の方法について検討する。</p> <p>・女性教員の高比率の維持と上位職への登用を進める。</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>研究科長室会議、運営会議、教員連絡会等を実施した。また、初めて4委員会(入試委員会、教務委員会、学生生活委員会、広報委員会)の合同会議で、テーマを決めて議論する機会を持った。規約を作成し、各分野・専攻の知識と経験のある外部有識者を収集し、外部評価委員会を開催した。外部評価を検討し、その回答を報告書として作成し周知、改善を行った。</p> <p>「学科長・保健学科長と語る会」を実施し、学生や若手教員と情報交換を行った。</p> <p>女性教員の比率を維持するとともに、看護学分野の女性教員の講師から准教授への承認を進めている。</p>